

平成 20 年 2 月 8 日
日本銀行盛岡事務所

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内経済は、横這い圏内で推移している。

最終需要の動向をみると、住宅投資は前年を下回ったが、設備投資が前年を上回っているほか、公共投資も前年を上回った。この間、個人消費は弱めの動きとなっている。

こうした中、生産は増加テンポが鈍化してきており、雇用情勢は横這いの動きとなっている。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、総じてみれば弱めの動きとなっている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、冬物衣料品が低調なほか、身の回り品、雑貨などの売れ行きも鈍く、前年を下回って推移している。スーパーでは、石油製品やや食料品の値上げもあって、買上げ点数の減少など慎重な購買スタンスがみられており、やや弱めの動きとなっている。

(家電量販店売上高)

家電販売では、薄型テレビやデジカメが順調に推移しているが、冷蔵庫や洗濯機など白物家電が伸び悩んでおり、全体では前年並みの動きとなっている。

(乗用車新車登録台数)

12 月の乗用車新車登録台数（軽自動車を含む）は、小型車、軽自動車が低調なことから、全体では前年を下回って推移している。

(2) 公共投資

公共工事請負金額は、下期に入り前年を下回って推移してきたが、1月は災害復旧工事の発注がみられたことなどから、昨年8月以来5ヶ月振りに前年を上回った。

(3) 住宅投資

新設住宅着工戸数は、11月に前年を上回った後、12月は再び前年割れとなるなど、一進一退の動きとなっている。

(4) 設備投資

2007年度下期の設備投資計画(12月短観調査結果)をみると、電気機械や一般機械に設備投資積み増しの動きがみられ、製造業を中心に、前年度を上回る計画となっている。

3. 生産動向

生産は、増加テンポが幾分鈍化している。

(電子部品類)

電子部品・デバイスでは、薄型テレビなどのデジタル家電や携帯電話向けを中心に高操業が続いている。

(輸送機械)

完成車は、米国の低所得者層の需要落ち込みなどから、操業度をやや引き下げている。自動車部品は、中国、ロシアなど、新興国向けの需要好調を背景に高水準の生産を続けている。

(一般機械)

建設機械部品は、新興国向けを中心に堅調に推移しているが、半導体価格の下落から半導体製造装置が生産レベルを引き下げているほか、自動車関連向け工作機械も米国の受注鈍化から生産を多少抑制している。

(その他)

鉄鋼の線材は、自動車向け需要に支えられ、高操業を続けている。一方、窯業・土石、木材・木製品は、住宅着工の減少から、減産体制を続けている。食料品は、冷凍調理食品は堅調なものの、水産缶詰が原材料コストの上昇などから

減少傾向にあり、全体では横這いで推移している。

4. 雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、12月の有効求人倍率（季節調整値）は0.65倍（前月：0.62倍）と7ヶ月振りに上昇した。また、新規求人倍率（同上）は1.06倍（前月：0.94倍）と、4ヶ月振りに1倍台に回復した。

この間、雇用者所得は、常用雇用者数が前年を下回って推移していることから、前年割れの状態が続いている。

5. 企業倒産

1月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数10件（前年同月9件）、負債総額18億24百万円（同7億6百万円）となった。

6. 金融面の動向

預金動向をみると、公金預金が前年を大きく下回っているものの、個人預金が増え、堅調に推移していることから、全体では前年を上回っている。

一方、貸出動向をみると、法人向けが引き続き低調なうえ、住宅ローンの増勢も鈍化していることから、全体では前年を下回って推移している。この間、貸出金利は、緩やかに上昇している。

以 上

本件に関する問い合わせ先

日本銀行盛岡事務所

TEL：019-624-3622（代）

<http://www3.boj.or.jp/morioka/>